

第 13 回 兔原祭が開催される！

第 13 回兔原祭が 5 月 16 日(金)、17 日(土)に開催されました。2 日目は朝からあいにくの雨で企画の実施方法の変更等が発生しましたが、教室での企画からアリーナでのステージまで、今年も在校生が様々な企画で輝いている姿がたくさん見られました。また、天候が悪い中でも多くの一般来場者が兔原祭を訪れ、母校の魅力を存分に感じていただけている様子が随所に見られました。



実行委員長 武田陽花梨さん(13 回生)より

～第 13 回 兔原祭を終えて～

第 13 回兔原祭にお越しくださった方々、お楽しみいただけたでしょうか！

第 13 回兔原祭は「進化」を目指し準備、運営を行いました。先輩方が作り上げてきた兔原祭を受け継ぎ、そして新しい挑戦をしていくことで、停滞せず発展する兔原祭を作り、未来に引き継いでいくことができるという意味を込めての「進化」です。「進化」を目指し全校生徒の意見をきっかけに様々な挑戦を行いました。具体的には、開催形態(2 日目)の変更、フィナーレの実施、ホームページの充実等です。これらの直接的に表れる点にとどまらず、有志企画オーディションの実施、校庭のレイアウトの変更、テーマに沿った装飾等の運営面からも、全校生徒を含む兔原祭参加者全員の満足度向上を追求し、兔原祭を作り上げました。当日は天候が不安定な中での開催となりましたが、無事に成功させることができました。私自身大好きな兔原祭に実行委員長として関わることができ、兔原祭を成功で収めることができたことに安心と達成感を感じています。

今後も生徒のアイデアから生まれる新たな挑戦により、兔原祭は進化し続けていきます。今後とも兔原祭へのご支援、ご愛顧をよろしくお願いします。これにて、第 13 回兔原祭実行委員会からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



兔原祭担当 米田 貴先生より

～Passion に満ちた兔原祭—在校生のエネルギーが躍動した二日間～

今年度の兔原祭もまた、「在校生のエネルギーが解き放たれた」二日間となりました。

今年のテーマは Passion。そのテーマの通り全校生徒の情熱が至るところにあふれる兔原祭でした。趣向を凝らした企画やパフォーマンスの数々。普段の授業では見られない、もう一つの顔を持つ生徒たちの姿がありました。特に今年は Web アプリと連動した参加型企画が急増したと思います。生成 AI を活用することでコンテンツ開発の敷居が下がったことも一因だと思います。デジタル技術を取り入れた新しい“現代の兔原祭”がそこにはありました。

一方で、全校生徒が協力して準備・運営・片付けまでやりきるという「兔原祭の精神」もしっかりと継承されています。試行錯誤を重ねながら仲間と議論をして「自分たちの手で創る兔原祭」という矜持が、展示空間や舞台、そして運営の一つひとつに宿っていました。13 回目を迎える今年は、先輩たちが築いてきた経験やノウハウが着実に後輩へと受け継がれ、各局間の連携や情報共有もますます緻密に行われていました。

兔原祭全体を支えた実行委員の活躍にも最大限の賛辞を贈りたいです。在校生や来場者が心から楽しめるよう、陰に日向に奔走する姿が随所に見られました。

特に、2 日目には大雨と強風という予期せぬ試練がありましたが、生徒たちは冷静に状況を把握し柔軟に対応していきました。その姿には日頃の準備を通じて培われた判断力と、真の意味での実行力が確かに感じられました。

兔原祭は教科書には載っていない“生きた学び”にあふれた貴重な場です。計画性、協働力、責任感、実行力。どれもがこの行事を通じて自然に育まれ、生徒たちはそれぞれの役割の中で確かな成長を遂げていました。

時代が移り変わっても兔原祭には「変わらぬ情熱」と「新しい挑戦」が同時に息づいています。卒業生の皆様におかれましても、在校生たちの力強くしなやかな姿に、少しでも懐かしさや未来への希望を感じていただければ幸いです。

今年もホームカミングデイを開催しました！

兔原祭 2 日目、今年も教室を一部屋借り、ホームカミングデイを開催し、足元の悪い中であったにも関わらず、附属住吉中学校の先輩方を含む約 100 名の卒業生に来場して頂きました。ご来場いただいた卒業生の皆さん、ありがとうございました。

教室では、学校からお借りした卒業アルバムなどを展示し、先生方にもお越しいただけたことで、学年を超えた卒業生間の交流が深まったと思います。

来年も兔原祭に合わせてホームカミングデイを開催しますので、ぜひお誘い合わせの上、お越しください！



卒業生だより

橋本 藍さん [中等7回生]

蒸し暑い日が続いておりますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

はじめまして。7回生の橋本藍と申します。いつも「陽菊」楽しく拝見しております。まさかその陽菊に、自分が寄稿することになるとは想像もしておらず、大変恐縮しております。

私事ではございますが、今年の4月より幼稚園教諭として附属幼稚園で勤務しております。幼児期は人格形成の基盤となる大事な時期であり、大きな責任を感じております。また、幼児期の教育は目に見えないことが多く、子ども達一人ひとりに、しっかりと応えることができているのだろうかと不安にもなります。

毎朝、登園時間前でまだ門は閉まっていますが、門の外から「あいせんせー！」と子ども達の元気な声が園庭に響きます。その声は私に元気をくれます。子ども達は小さな体に、とてつもなく大きなエネルギーを持っています。そんな子ども達と一緒に、さまざまなことにワクワクしながら、毎日楽しく過ごしております。

ワクワクすると「やってみたい！」と心が動き、やってみたら「できた！」という達成感を味わいます。成功体験を積み重ねることで、自信がもてるようになり「もっとやってみたい！」と挑戦する気持ちが湧いてきます。日々成長していく子ども達の姿が、私にワクワクする心を大切に生きていきたいと思わせてくれます。

子ども達は、自分の気持ちに常に正直で素直で、いつも真剣です。さまざまな感情体験をしながら葛藤している姿はキラキラと輝いています。まだ自分の言いたいことをきちんと伝えることも、相手の伝えたいことを最後までしっかりと聴くことも未熟なために、子ども同士の思いがぶつかり合うことも多くあります。その中で相手の思いに気づき、人との関わり方を学ぶ大切な経験をしています。私は心の中で「がんばれー！」と応援しています。

働き始めて3カ月。なかなか思うようにはいかず、難しいと感じることばかりで、大変ではありますが、園長先生はじめ先輩の先生方に恵まれ、温かいご指導をいただきながら、充実した日々を送っております。

また、私は歌を歌うことが大好きで、歌を歌うと不思議と心も安定します。自然も好きで、自然の中になると心が落ち着きます。心が不安定にならないように、これからも好きなことをする時間を私は大切にしていきたいと思うのと同時に、子ども達にも歌を歌うことの楽しさを伝えていきたいです。

中等ではコーラス部に所属しておりました。入学前に観たコーラス部の演奏会に魅了され、入部を決めました。顧問の先生方、先輩方から歌うことの楽しさを教わり、また歌を通して技術面だけでなく、社会に出ても困らないように多くの、人として大切なことを教えていただきました。そのおかげで今の私があります。卒業後も合唱団エメロードで歌う機会をいただき、楽しい時間を過ごしております。



Ai Hashimoto

附属幼稚園→小学校→中等教育学校と附属学校園で15年間充実した日々を過ごし、この4月からは附属幼稚園で教諭として勤務。世代を超えた附属後輩たちを温かく見守っている。

附属で巡り会えたたくさんのご縁に、感謝の気持ちでいっぱいです。みなさまの今後のますますのご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

先生だより

竹村 実成 先生

同窓生の皆様、こんにちは。平成19年（2007年）に神戸大学発達科学部附属住吉中学校（当時）を卒業いたしました、竹村実成と申します。

附属出身の祖母から「素晴らしい学校だよ」と勧められ、附属の門を叩いたあの日から、早いもので25年近くの歳月が流れました。生徒として9年間を過ごした思い出深いこの学び舎に、今度は理科（物理）の教員として戻り、今年で6年目を迎えます。私が着任した年に入学してきた生徒たちが、この春、12回生として卒業していく姿に、時の流れの速さを実感する毎日です。本日は、同窓生の皆様に、一卒業生、そして一教員として見た母校の今昔をお伝えてできればと思います。

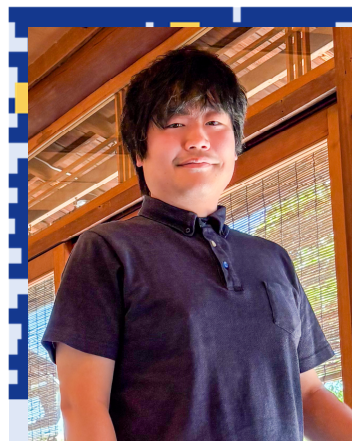
教員として母校に戻り、まず感じたのは「生徒主体の自由な校風は、今も全く変わらない」ということでした。私たちの頃もそうであったように、「まずは生徒のやりたいようにやらせてみよう」という雰囲気が、この学校には脈々と流れています。

その精神を象徴するような出来事が先日ありました。私が顧問を務める科学研究部（私の在学時は科学技術研究部でした）の生徒たちが、ゴミ捨て場から扇風機を拾ってきて、意気揚々とモーターを分解していたのです。その光景は、ゴミ捨て場のミシンを分解し、モーターを取り出してはしゃいでいた中学時代の自分たちの姿と重なりました。ちなみに私は、その後モーターをコンセントにつないで煙を噴かせたので、生徒たちには「くれぐれもコンセントには繋がらないでね」と、しっかり釘を刺しておきました。時代は変われど、探究心のあり方は変わらないのだと、しみじみと思った瞬間です。

もちろん、生徒としての思い出は尽きません。生徒会副会長・放送部員として奔走した文化祭。仲間と新曲を創り上げ、指揮を振った音楽祭。私が作った旋律に、友人が歌詞を乗せてくれた時の感動は、今でも鮮明に思い出せます。音楽を「奏でる・創る楽しさ」を教えてくれたこの経験が、後に高校や大学でオーケストラ（チェロ）を嗜むきっかけともなりました。

一方で、大きく変わったこともあります。最も感じるのは、生徒たちの視野が格段にグローバルになったことです。現在の総合的な探究の時間「Kobe ポート・インテリジェンス・プロジェクト（通称：KP）」、特に3年生から6年生が取り組むKPでは、生徒が1人1テーマで論文を執筆します。そのテーマの個性と質の高さには目を見張るものがあり、指導する私自身が毎年多くの刺激を受けています。ご興味のある方は、ぜひ本校のYouTubeチャンネルで優秀者発表会の様子をご覧いただければ、後輩たちの活躍に驚かれることと思います。

校舎の風景も様変わりしました。中学校校舎1階の理科室の目の前に広がり、工作をしたり、植物を育てたり、昼食をとったりしたお気に入りの前庭は、教室レイアウトの変更の影響で今では立ち入る生徒



Minaru Takemura

1998年4月に附属住吉小学校に入学、附属住吉中学校は石丸先生が学年主任を務めた58回生。また、神戸高校時代には1年生の担任が吉田先生（現 中等副校長）、3年生の担任は齋木先生（前 中等校長）であった。現在は自らが9年間通った校舎で教壇に立っている。

も少なくなり、少し寂しい姿になりました。しかし、そのおかげで多様な植生が観察できる貴重な場となり、生物の授業で大いに役立っています。また、私がもっぱら授業準備をしている物理準備室は、当時は校長室・事務室でした。まさか自分がこの場所で、同窓会誌の原稿（いまお読み頂いているこの文章）を書くことになるとは、夢にも思っていませんでした。

校舎の風景は変わっても、ここで育つ生徒たちの本質は変わりません。生徒たちは、私たちが教える以上に、自ら学び、考え、日々逞しく成長していきます。その姿を間近で見守り、少しでもその手助けができることに、大きなやりがいと幸せを感じています。私がそうであったように、この学校は生徒一人一人の生き方、考え方に大きな影響を与える場所です。

この唯一無二の教育理念と実践がさらに発展し、生徒たちが未来において新たな価値を創造し続ける人材となること。そのために、一教員として、そして皆様と同じ卒業生として、これからも力を尽くしていきたいと考えています。

またいつか、皆様とこの学び舎で、思い出を語り合える日を楽しみにしております。

寄付のお願い

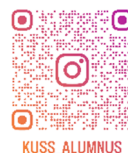
母校の教育活動の支援のため、寄付へのご協力よろしくお願いします。

附属学校部 HP : <http://www.schools.kobe-u.ac.jp/donations.html>



SNS で情報発信中！

Instagram、Xで同窓会関係の情報を発信しています！フォローお願いします



～同窓会からのお知らせ～

■ 神戸大学附属学校園同窓会が2期目に突入！：2023年3月に発足した、明石／住吉／中等全体の同窓会「神戸大学附属学校園同窓会」の2期目（2025－2026年度）が始まりました。2期目については以下のメンバーで同窓会を運営します。

【同窓会役員】

- 会長 小黒 雄介（中等1回生）
副会長 吉川 悟（明石21回生、新任）、馬淵 仁（住吉22回生、常任幹事から変更）
常任幹事 小林 中（住吉39回生）、井筒 典久（明石39回生）、後藤 丈仁（明石39回生）、
金端 秀太（中等1回生、会計係（2期目））、加藤 あかね（中等2回生）、
久保田 心（中等3回生）
監事 小市 裕之（住吉30回生）、大濱 萌花（中等1回生）

また、1期目の振り返りと次の2年間の活動計画について議論するべく、以下の通り常任幹事会と学年代表幹事会を実施しました。

〔常任幹事会〕

日時：2025年6月15日（日）14:00～

主な議事：●1期目（2023-2024年度）の活動実施状況の確認

（同窓会への入会人数／卒業証書バインダーやホームカミングデイ等の同窓会企画の実施状況／ユウカリ会や住吉東京同窓会とのつながり等について）

●1期目の決算・会計監査

●2 期目の活動計画

(ホームページ設立を含む同窓会企画の計画、同窓会費のさらなる活用検討等について)

[学年代表幹事会]

日時 : 2025 年 6 月 28 日 (土) 14:00～

主な議事: ●常任幹事会での議事事項の報告・承認

●同窓会名称案について

●同窓会役員の推薦について

2 期目も明石、住吉の先輩方と密に連携しながら、卒業生間の交流を深め、さらに母校の発展に寄与できるよう尽力します。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いします。

◇神戸大学附属学校園同窓会 連絡用メールアドレス: kuss.alumnus@gmail.com

■ 住吉東京同窓会が 10 月 4 日(土)に開催されます!: 毎年秋に開催されている住吉東京同窓会が、今年も 10 月 4 日(土)に開催されます。会場は日比谷公園を一望できるレストランアラスカ (日本プレスセンター店)、懇親会は 12:00 からの予定です。様々な業界でご活躍されている附属住吉の卒業生の皆様とお会いできる素敵な機会ですので、ぜひご参加ください。詳細は追って、学年代表幹事を介して展開します。

【編集後記】

今号では附属で勤務されている二人の卒業生にご登場いただきました。ご寄稿いただいた文章は、それぞれ自らの後輩たちに附属の伝統を受け継いでいる様子が存分に伝わってきて、とても素敵だなと感じました。橋本さん、竹村先生、ありがとうございます。なお、中等には竹村先生を含め、附属出身の先生が 4 名在籍されています。同窓会でもこれらの先生方と連携し、卒業生コミュニティも母校も盛り上げていければと考えております。

少し話は変わりますが…。先日、出張で能登半島に赴く機会がありました。新幹線を降りた金沢駅周辺では震災の爪痕はほとんど見られませんでした。能登半島を北上して七尾市～穴見町に到着すると、屋根がブルーシートで覆われたままの住宅や舗装が補修されていない道路が散見され、時の流れが止まってしまっているようでした。阪神淡路大震災を直接経験したわけではないですが、30 年前の神戸もきっと同じような状況で、全国からの様々な支援があって復興したのだと思うと、自分も能登半島へ恩返しをしたい気持ちを強く持ちました。

ちなみに、2011 年の東日本大震災が発生した際、ひょうごボランティアプラザにご協力頂き、中等から兵庫県の学校で初めて東北地方にボランティアに伺う計画があったのですが、当時は実現しませんでした。今から考えても非常にもったいなかったなと感じているのですが…。しかし、今年 5 月にホームカミング日の準備で中等に訪れた際、在校生が能登半島にボランティアに赴いた話を聞きました。10 年以上の時を経て、中等がこの種の活動に前向き取り組める学校に発展したことを改めて認識し、とても嬉しく感じました。

附属の伝統も大切にしながら、中等がさらに魅力的な学校にいけるよう、同窓会でも引き続き微力ながらサポートできればと思います。卒業生の皆さん、ご協力よろしくお願いします。(1 回生 小黑)

(次号は 2025 年 9 月 30 日発行予定です)